

して、佛耶兩教の法將は群がる民衆へ無上の寶珠を與へてゐる本會よりは松木辯論部長以下二名應援隊として出張した。

支那動亂の災を享けて、第三師團管下に屬する會員高等部二年生石黒湛全君は出征の命を受く、依て五月十一日午前十時樓神の法窟に於て其の報告式を擧ぐ、本會代表の式辭に次で皇國の爲に身命を抛つて君恩に報ゆるの答辭あり、本學院校旗を先頭に出征の途に就かれたり。

五月廿四日佛敎研究の爲來朝中なる獨逸神學博士テットマーブルバツハ並瑞西國人カル、ワイザンゲルの兩氏來院、祖山學徒の爲に一場の感想講演あり、大いに得る處ありき。

長らく學院講師として、哲學方面の科目を擔當せられし八木友眞師は、第一學期限り敎職を退かれた、依て送別謝恩茶話會を大客殿に開催す、師の置きみやげたる哲學的精神は今後益々學院に成長することであらう。

前記の如く支那動亂に出征せる會員石黒湛全君は暴露三ヶ月天津の風に櫛り雨に浴したれども、茲に目出度凱旋せらる、依て九月五日午後、大客殿に於て祝賀茶話會を開催す。院長狹下御訓示に次で石黒君の出征中の所感演説あり盛大なりき。



辯論部だより

雄辯！ それは現代に活躍せんと欲するものゝ缺くべからざる最大要件である、況んや衆生敎化の使命に生きんとする吾等宗敎家に於てをや。

於茲乎本部の責の存する處、愈々重且大なるを痛感せずにはゐられぬ。

……時は流れる……時代は遷る……因習的な形式や昔慕した迷信の殻を脱ぎ捨て、眞の大白法を宣揚し、「宗祖が信仰の」徹底に大いに勇猛精進せねばならぬ。

然しそれには熱烈なる意氣を要し、忍耐を要し、而して吾等の武器とするものは、本より金力にあらず權力にあらず唯々爛三寸の舌頭があるのみだ……。然り！ この舌頭こそ吾等に取つては唯一の武器であり生命でなくてはならぬ。

今や宗敎の名、當に地に落ちんとするの悲運を見るは何が故ぞや。然り而して又これが挽回の重任を擔へるは誰ぞや。

おゝ奮起せよ！ 使命に生きんとするの若人。汝の奮起こそ實に刻下の急務である。而してこれが實現は、一に偉大なる辯論の力のみ能くする處である。

斯くして時代は辯論を強要する。吾等豈時代に逆ふを欲せんや。本部では毎週土曜の午後を割いて耕辯に當て、且、學期毎

に各級選出雄辯大會を開催して、大いに耕辯の實を揚げてゐるのみならず一昨年度よりは男女青年團身延中學及び吾祖山學院の四團體の聯合雄辯大會を開催するなど、着々向上の道程を辿りつゝあるのである。

因みに本部の五月以後の情報を畧記せん。

甲府太田町公園の獅子吼 五月二日より三日四日に亘り松木部長、山口龍明君、武田海正君等公衆の前に長廣舌を振ふ。

釋尊降誕會を期して 五月七八日の兩夜は例年の通り身延上町辻に立ちて大獅子吼をなす。其の人は

七日 矢谷智秀君、瀧川顯照君、近藤惠聰君、武田海正君、吉川啓善君、山口龍明君、清水教授

八日 横山泰歡君、三木淨達君、近藤惠聰君、渡邊正教君、松木部長

木部長

開闢會の夕 六月十六日身延山三門に於て幻燈大會、更に十七日道路布教を上町辻に。

幻燈解説者は横山泰城君(中四)、樋口寛正君(中五)、近藤惠聰君(高一)、武田海正君(高一)、塩嶋頭沾君(高三)、松木辯論部長

技士 岡本前能君(中四)

助手 工藤唯一君(中三)、福士泰量君(中三)

道路布教をした人々は、三木淨達君(中四)、田代榮正君(中五) 近藤惠聰君(高一)、武田海正君(高一)、渡邊正教君(高三)、松木辯論部長

木辯論部長

第一學期各級選出雄辯大會 六月廿七日迫る試験も顧みず熱

誠なる部員に依つて盛會裡に閉會す。プログラム左の如し。

閉會の辭

三木幹事

暗黒より光明へ

中一 梅溪英學君

日蓮上人を仰慕して

中二 中澤要實君

人生

中三 松井三一君

我等の迎るべき道

中四 横山泰城君

時代は斯く語る

中五 矢野鍊明君

世相を眺めて

高一 堀内義光君

東洋の平和と東洋人類の幸福は何處に

高二 方哲源君

近代文明の破綻と其歸結

高三 渡邊正教君

挨拶

部長 松木教授

閉會の辭

田代幹事

三光堂の説教 身延上之山三光堂の請に應じ、松木部長及び山口龍明師出張す、

尙此の外山内布教、特別布教等々擧ぐれば多し、餘り煩に流るゝ故畧す。(三木生)



運動部報

自分は麼うした事を平素耳にし又体験もする。それは自分が